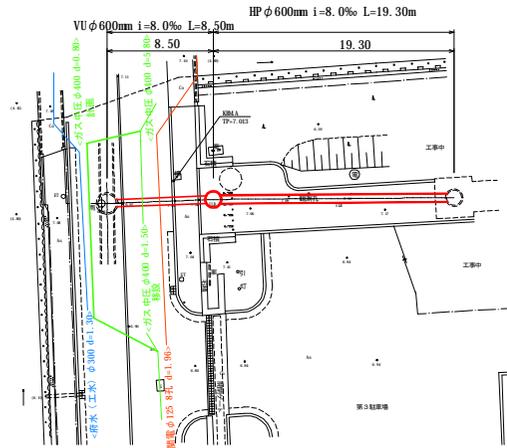


久宝寺緑地 北地区 遊水地整備工事 箇所図
住 所：八尾市西久宝寺

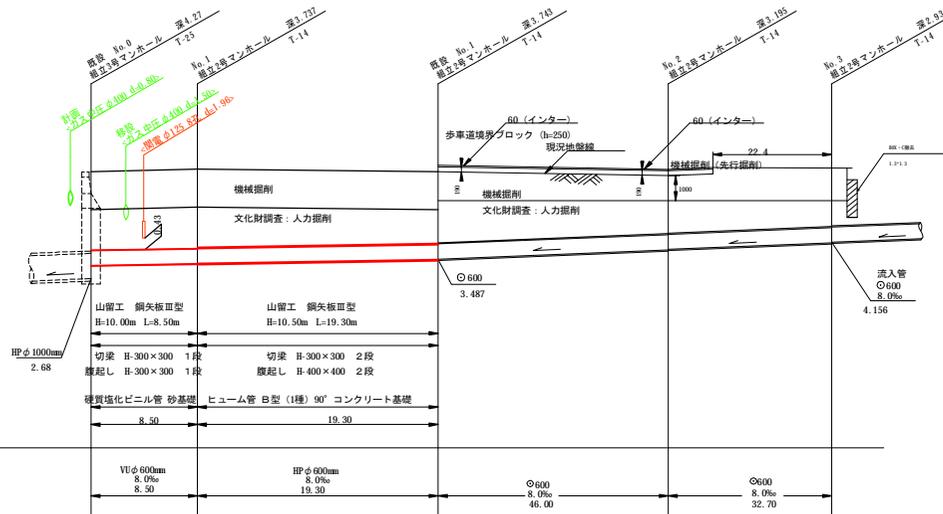
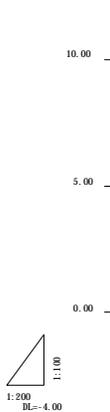


排水縦断面図(八尾市接続)
(雨水)

平面図
S=1:200



縦断面図



掘削深		3.84	3.87 4.13	(4.10) 4.12	3.60 3.38	3.33 3.31
土被		3.11	3.13 3.07	(3.06) 3.07	2.55 2.33	2.28 2.26
管底高		3.225	3.313 3.333	(3.467) 3.467	3.652 3.672	4.136 4.136
地盤高		6.95	7.08	7.21	7.05	7.07
追加距離		0.00	11.00	27.75	46.00	78.70
単距離		0.00	11.00	16.75	46.00	32.70

年度	平成24年3月		
工事名	久宝寺緑地 北地区 排水池整備工事		
場所	八尾市西久宝寺地内		
図面名	平面図及び排水縦断面図(八尾市接続)		
縮尺	図示	図面番号	0 / 0
大阪府八尾土木事務所			

ボーリング柱状図

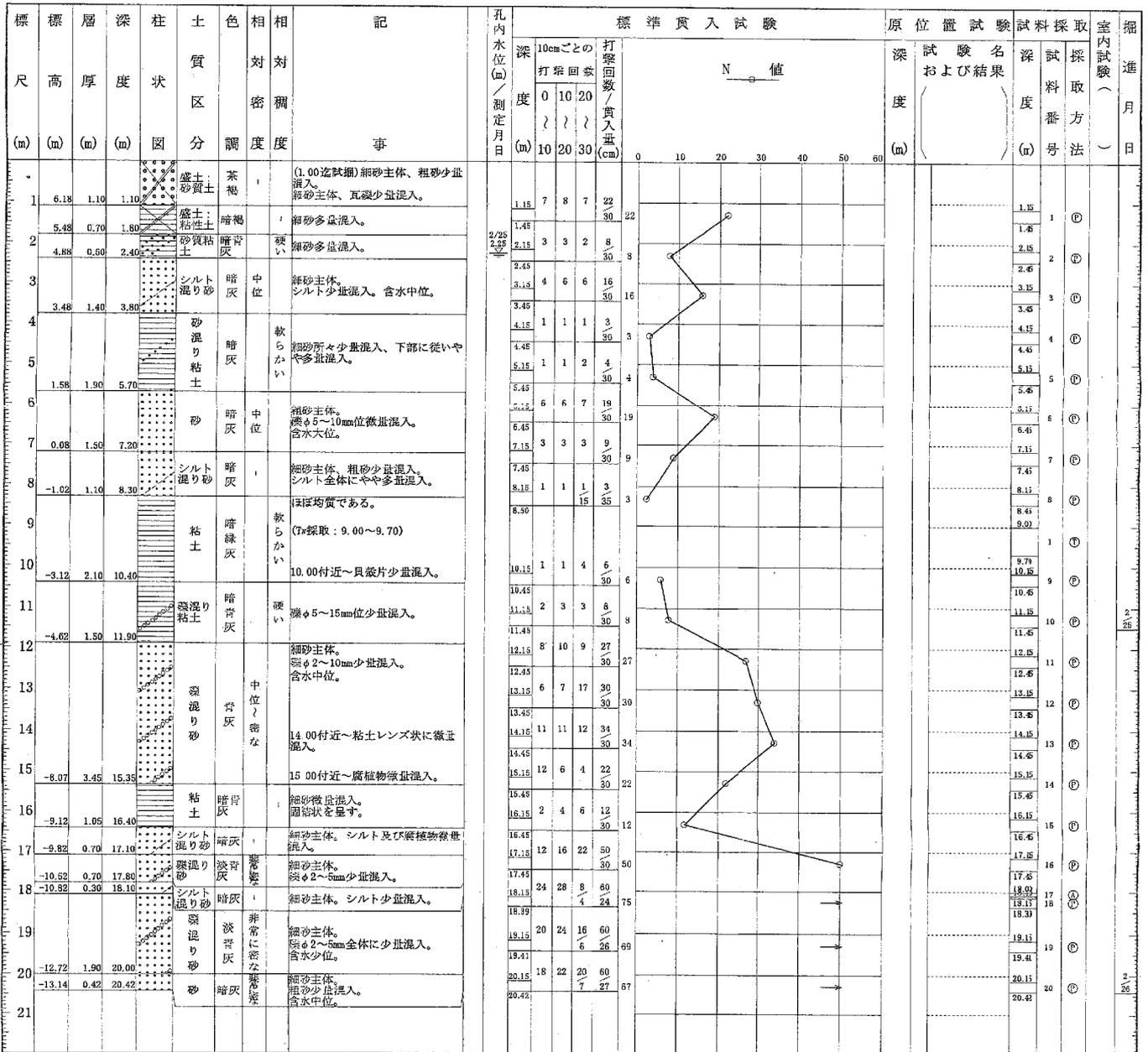
調査名 久宝寺緑地中地区橋梁設計等委託

ボーリングNo. 1

事業・工事名

シートNo. 1

ボーリング名	N0.1		調査位置	大阪府八尾市西久宝寺			北緯			
発注機関	大阪府 南部公園事務所			調査期間	平成 16年 2月 25日 ~ 16年 2月 26日		東経			
調査業者名	株式会社 かんこう 電話 (06-6935-6905)		主任技師	大前 雄史	現場代理人	岡本 成夫	ボーリング責任者	渡口 孝昌		
孔口標高	TP +7.278m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 0°	使用機種	試験機 KR-50 エンジン ヤンマーNFD-8K	
総掘進長	20.42m	度					ハンマー 落下用具	自動落下	ポンプ	カノ VP-5



久宝寺緑地周辺ボーリングデータより

閲覧用GIS(地図) - Internet Explorer
2018年度

更新 1/10000
拡大
縮小
移動
位置検索
属性検索
範囲検索
属性表示
計測
凡例表示
印刷
地図最大化
タブモック
閉じる

共通 主題図 施設情報 業務

背景図

- 航空写真
- 航空写真(電子国土)
- 市町村境界
- 地形図
- 地形図(電子国土)
- 旧地形図

港湾局管内図

- 堺泉北港
- 阪南港

土木事務所管内図

- 池田
- 茨木
- 枚方
- 八尾
- 富田林
- 鳳
- 岸和田

治水事務所管内図

- 西大寺

項目	内容
調査名	寝屋川流域下水道竜華水環境保全センター送泥管土質調査委託
調査位置	大阪府八尾市西久宝寺, 八尾市大字亀井
ボーリング名	5
発注機関	22774108
調査開始日	

項目	内容
調査終了日	2008/2/1

施設選択

住所: **八尾市西久宝寺付近**

座標: X=-151828 Y=-38502

縮尺: 1/10000

詳細

- 電子納品
- 要望苦情
- 工事履歴
- 写真
- 図面
- その他

ボーリング柱状図

調査名 寝屋川流域下水道竜華水環境保全センター送泥管土質調査委託

ボーリングNo. 5 1 3 5 7 4 4 6 0 0 5

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	5		調査位置	大阪府八尾市西久宝寺, 八尾市大字亀井			北緯	34° 37' 24.6"			
発注機関				調査期間	平成15年2月1日～15年2月1日			東経	135° 34' 43.8"		
調査業者名	株式会社 森川ボーリング		主任技師	現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者				
孔口標高	TP +8.09m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試験機	ハンマー落下用具	コーンブーリー
総掘進長	10.50m		度	向	向	向	向	エンジン		ポンプ	

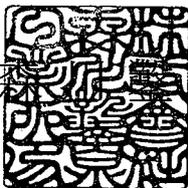
標尺	標高	層厚	深度	柱状	土質	色	相対	相対	記	標準貫入試験				原位試験		試料採取			掘進	
										孔内水位 m / 測定月日	10cm毎の 打撃回数			N 値 — ○ —	深 度 m	試験名 および結果	標高	試料番号		採取方法
											0	10	20							
	7.29	0.80	0.80		シルト混り礫質土	暗灰				1.30	1.15	4	4	4						
1					礫混り砂質粘性土	暗褐				1.45	30	4	30	4						
2	5.58	1.78	2.50		粘性土	青灰				2.15	2	2	30	2						
3	4.98	0.60	3.10		粘性土	青灰				2.45	30	2	30	2						
4					粘性土	暗青灰				3.15	2	2	30	2						
5					粘性土	暗青灰				3.45	30	2	30	2						
6	2.08	2.98	6.00		シルト混り砂	青灰				5.15	2	2	30	2						
7	1.48	0.60	6.60		礫質土	青灰				5.45	30	9	30	9						
8	0.68	0.80	7.40		シルト混り砂	暗緑青灰				6.15	9	9	30	9						
9	-0.51	1.20	8.60		砂混り粘性土	青灰				6.45	30	7	30	7						
10	-2.41	1.98	10.50		砂混り粘性土	青灰				7.15	7	7	30	7						
										7.45	30	6	30	6						
										8.15	6	6	30	6						
										8.45	30	6	30	6						
										9.15	6	6	30	6						
										9.45	30	6	30	6						
										10.15	6	6	30	6						
										10.45	30	6	30	6						

久宝寺緑地北地区さく井工事

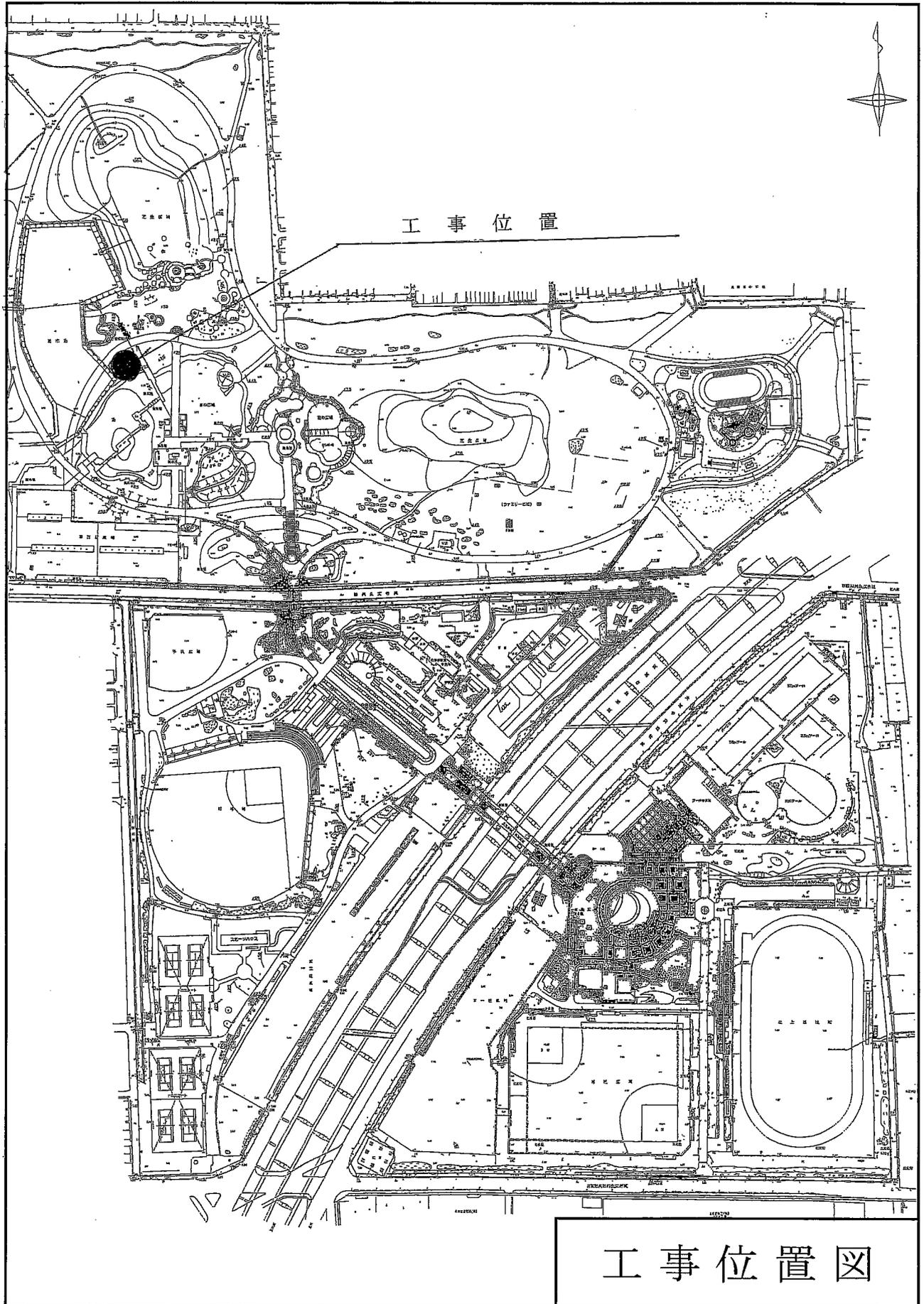
報 告 書

平成18年 2月

株式会社



泉工業所



工事位置図

3-4 揚水試験結果

1. 段階揚水試験結果

段階揚水試験結果の記録及び図表は巻末に示す。

これより結果を要約して下記に示す。

表3-1 段階揚水試験結果表

自然水位 GL-15.50m

段 階	揚 水 量		測定水位 (m)	水位低下量 (m)	比湧出量 m ³ /day/m
	ℓ / min	m ³ /day			
第1段階	109	156.96	15.96	0.46	341.22
第2段階	204	293.76	16.49	0.99	296.73
第3段階	300	432.00	17.04	1.54	280.52
第4段階	419	603.36	17.78	2.28	264.63
第5段階	512	737.28	18.58	3.08	239.38
				平均	284.50

段階揚水試験をLog Q~Log S曲線で示すと図3-1のとおりになる。

試験最大揚水量512ℓ/min (737.28m³/day) 内で限界揚水量に至らなかった。平均比湧出量は284.50m³/day/mとなり、水位降下量の少ない水量豊富な井戸である。

2. 一定揚水試験結果

段階揚水試験結果より、

一定揚水量 Q を $512\ell/\text{min}$ ($737.28\text{m}^3/\text{day}$)として、連続揚水をした後水位低下がほぼ停止したとき、揚水量を 0 として井戸内水位の回復状況を測定したものである。

試験記録及び図表は巻末に示す。

これより井戸の水力定数を求める。

《計算条件》

揚水量 $Q = 512\ell/\text{min} \doteq 8533.33\text{cm}^3/\text{sec}$

水位低下量 $s = 318\text{cm}$

井戸半径 $r = 10\text{cm}$

*Dupuitの解析法

$R = 200\text{m}$ と仮定する

$$\begin{aligned} T &= \frac{0.366Q}{\Delta s} \log \frac{R}{r} \\ &= \frac{0.366 \times 8533.33}{202} \log \frac{200 \times 10^2}{10} \\ &= 32.41\text{cm}^2/\text{sec} \end{aligned}$$

ストレーナー長 24m を帯水層厚とすると、

$$K = 1.35 \times 10^{-2} \text{cm}/\text{sec}$$

* J a c o b の解析法

$$T = \frac{0.183Q}{\Delta s}$$

図3-2より $\Delta s = 40 \text{ cm}$

$$= \frac{0.183 \times 8533.33}{40}$$

$$= 39.04 \text{ cm}^2/\text{sec}$$

ストレーナー長24mを帯水層厚とすると、

$$K = 1.63 \times 10^{-2} \text{ cm}/\text{sec}$$

*回復法の解析法

$$T = \frac{0.183Q}{\Delta s} \log \frac{t}{t'}$$

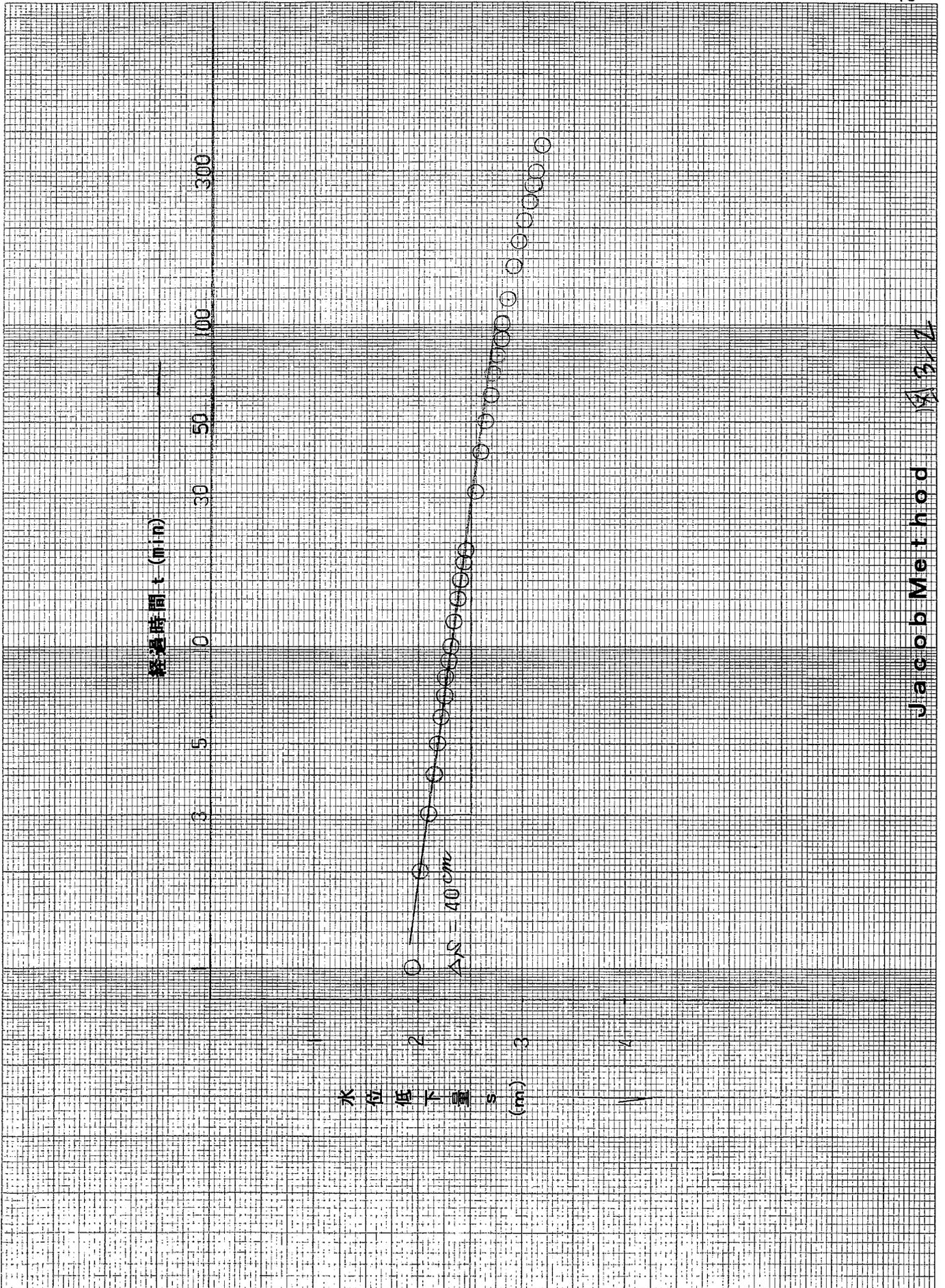
図3-3より $\Delta s = 37 \text{ cm}$

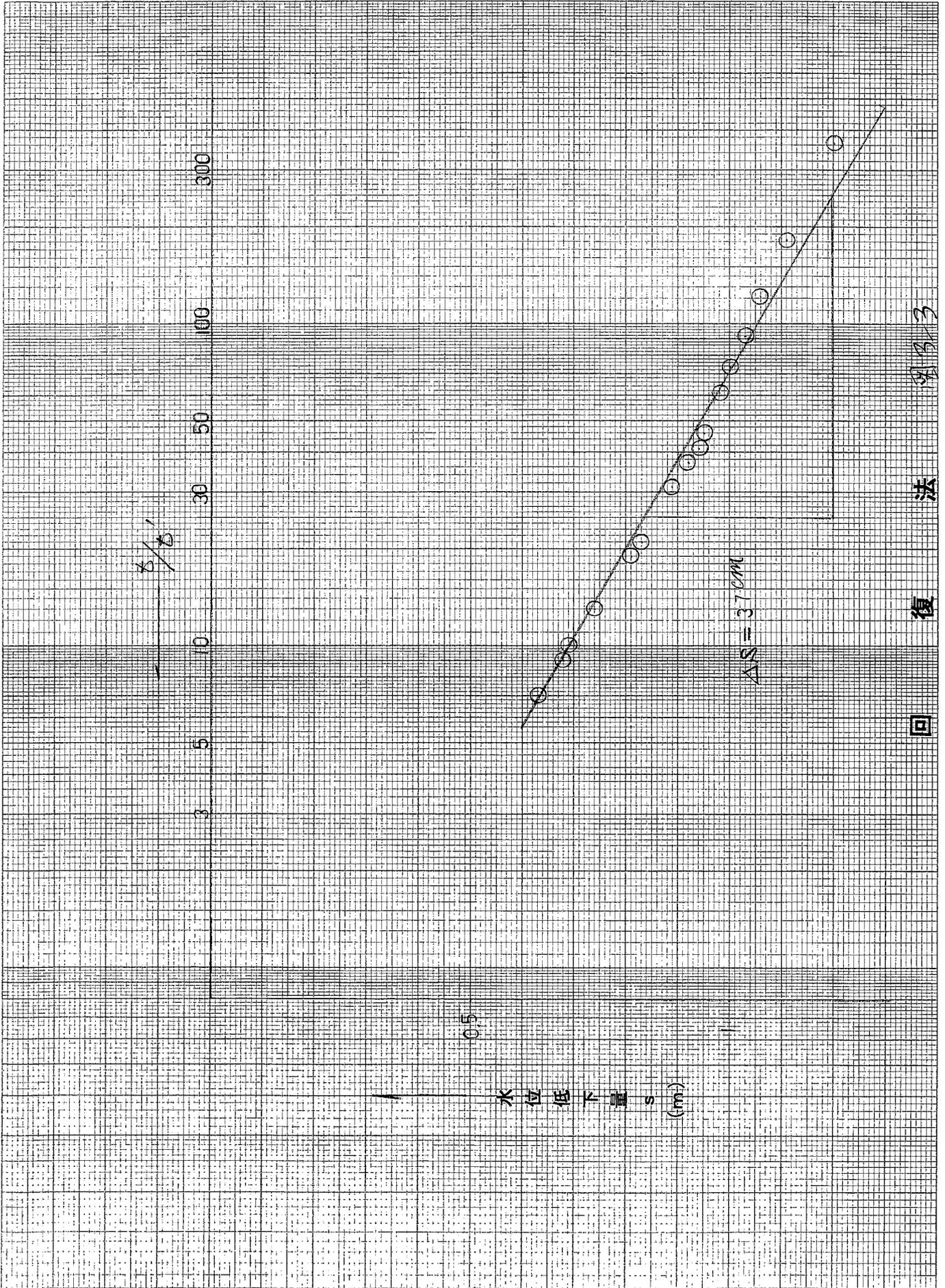
$$= \frac{0.183 \times 8533.33}{37}$$

$$= 42.21 \text{ cm}^2/\text{sec}$$

ストレーナー長24mを帯水層厚とすると、

$$K = 1.76 \times 10^{-2} \text{ cm}/\text{sec}$$





これらの計算から求められた、透水量係数及び透水係数を下記にまとめる。

表 3 - 2 透水係数等一覧表

	透水量係数 T =		透水係数 k =	
Dupuit	32.41	c m ² /sec	1.35 × 10 ⁻²	cm/sec
Jacob	39.04	c m ² /sec	1.63 × 10 ⁻²	cm/sec
回復法	42.21	c m ² /sec	1.76 × 10 ⁻²	cm/sec
平均	37.89	c m ² /sec	1.58 × 10 ⁻²	cm/sec

$$D = 24 \text{ m} \quad k = \frac{T}{D}$$

表 3 - 3 透水係数表

透水係数 (cm/sec)	10 ²	10	1	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	10 ⁻⁶	10 ⁻⁷	10 ⁻⁸	10 ⁻⁹
土 状	砂 利		砂利及び砂			砂・シルト・層状粘土			風化されない粘土			
属 性	帯 水 層					難 帯 水 層			非 帯 水 層			

上記のとおり、透水係数は砂利及び砂の帯水層に属し、良好な状態にある。

§ 4. ま と め

井 戸 仕 様

井戸掘削口径	φ 390mm
井戸仕上口径	φ 200mm
掘削深度	GL-81.5m
井戸仕上深度	GL-80m
ケーシングパイプ	FRPM
スクリーン	縦型スクリーン
スクリーン位置	GL-30m~38m、42m~54m、 66m~70m 延 24m
平均比湧出量	284.50m ³ /day/m
平均透水量係数	37.89cm ² /sec
平均透水係数	1.58×10 ⁻²
限界揚水量	512ℓ/min以上
適正揚水量	水道施設設計指針では限界揚水量の70% 以下を適正揚水量としており、本井の適正揚 水量は 512ℓ/min×0.7≒350ℓ/min 以上とします。
水質試験結果	別紙の通り